

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
ECCアーティスト美容専門学校	平成15年3月28日	中村 竜二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西一丁目8番5号 (電話) 06 - 6373 - 1447																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人山口学園	昭和58年11月22日	酒元 英二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西二丁目3番35号 (電話) 06 - 6366 - 0144																				
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																	
文化・教養	文化教養専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザーコース			平成20年文部科学大臣 告示第153号	---																	
学科の目的	本校は、学校教育法及び教育基本法に従い造形教育を基礎として専門技術と知識を教えるとともに、豊かな創造性と進取の気性、自律の精神に富んだ実社会に有用な人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1710単位時間	750時間	1050時間	0時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
284人	127人	0人	4人	17人	21人																		
学期制度	■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業出席率が75%以上であること。 総合評価点が50点以上であること。																		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：8月1日 - 8月31日 ■冬季：12月20日 - 1月8日 ■学年末：3月1日 - 3月31日			卒業・進級条件	卒業の要件) 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。																		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会			課外活動	■課外活動の種類 ハイキング、スポーツ大会、ハロウィンフェスティバル、文化祭、海外研修等 ■サークル活動：有																		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (令和2年度卒業生) 化粧品 (美容部員) 業界 コーセー (コスメコルテ)、アルビオン、ELCジャパン (ホビイプラウン、トムフォードビューティ、MAC)、パルファンクリスタンティオール、イブサ、エキップ、シャネル、オルビス、ポーラ、阪急阪神百貨店、山陽百貨店、近鉄百貨店等 ■就職指導内容 ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導・企業紹介と面接対策 ■卒業生数 92 人 ■就職希望者数 87 人 ■就職者数 87 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.6 % ■その他 ・進学者数： (令和3年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JBMAメイク検定 Basicコース</td> <td>③</td> <td>92人</td> <td>92人</td> </tr> <tr> <td>JBMAメイク検定 Professional</td> <td>③</td> <td>56人</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>化粧品検定2級</td> <td>③</td> <td>68人</td> <td>75人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他 (民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JBMAメイク検定 Basicコース	③	92人	92人	JBMAメイク検定 Professional	③	56人	54人	化粧品検定2級	③	68人	75人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
JBMAメイク検定 Basicコース	③	92人	92人																				
JBMAメイク検定 Professional	③	56人	54人																				
化粧品検定2級	③	68人	75人																				
中途退学の現状	■中途退学者 21名 令和3年4月1日時点において、在学者181名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者160名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 金銭面、進路変更、人間関係等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等			■中退率	11.6 %																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ※特待生制度、学費減免優遇制度、ひとり暮らし支援制度等 ■専門実践教育訓練給付：給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
当該学科の ホームページ URL	URL: http://art.ecc.ac.jp/

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
メイク・化粧品を中心とした美容分野の知識・技術を幅広く習得するため、メイク・化粧品業界を中心とした企業等と連携し、現場の意見・アイデアを導入し、卒業後、即戦力として活躍できるための体制を構築する。

- ①教育課程編成委員会を設置し、これを年間2回開催することにより企業等との連携を強化するとともに意見・アイデアをカリキュラム反映に活用する。
- ②協会・企業・サロン等に所属する非常勤講師を含めた会議を年間2回開催し、カリキュラムの確認、意見交換を実施することにより、実践的な授業展開を図るとともに学科としての意志統一を行う。
- ③特定のカリキュラム設定においては、関連企業等と提携することにより、現場に即した授業展開を図る。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、「教育課程編成委員会規定」に基づき、第2条で記載の通り、当該学科の専攻分野である美容/ビューティ/メイクを中心とした企業、団体等との連携を確保して、授業科目の開設その他教育課程の編成を適切かつ円滑に行う組織として学内に設置されたものである。学内で定例化しているカリキュラム編成会議・責任者会議を経て審議・討議された課題を中心に議題を設定し、これに基づき教育課程編成委員会で討議された結果は、再度、カリキュラム編成会議・責任者会議で具体策等を討議し緊急性/重要性を考慮の上、カリキュラム改善等の対応を実施する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
矢田綾香	一般社団法人 日本化粧品協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	①
野田かをり	パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャパン株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	③
秋山智	コーセー化粧品販売株式会社 西日本百貨店支店	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	③
川添雅英	ECCアーティスト美容専門学校 学校長代理	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	-
東井喜美	ECCアーティスト美容専門学校 副学校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回 9月、2月を基本とする。

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月14日 15:00-16:30

第2回 令和4年2月24日 10:30-12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

アーティスト学科の教育課程編成委員会は多コースに跨り、各コースの討議が希薄になる傾向があるため、2020年度からはコースごとに教育課程編成委員会を構成し、より具体的な検討ができるような体制を目指している。
ビューティアドバイザーコースの教育課程編成委員会において①共感力を高めるために、感性を磨く②社会に適應できる力が必要（指示を理解したり、レスポンスの早さ等）③男性顧客が増加しておりメンズ需要が高まっている。という意見をいただいたので、①については宝塚歌劇の観劇を通し感性を磨く機会の増加、②はMicrosoft teamsを用いたコミュニケーションでトレーニングを行う、③は2年生後期の販売の授業に男性顧客への対応を導入することが決まっている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野であるメイク/化粧品業界を中心とした企業・協会等と連携し、現場を想定した技術習得ができる実習・演習の設定に繋げる。特に①公衆衛生面の知識・技術の習得、②現場で活用できる専門技術の習得、③現場でのワーク、インターンシップ等による現場を想定した技術の習得を図る。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ヘアメイクの技術習得に当たり、JBMAのガイドラインに基づきその技術を習得するカリキュラムを設定。また、資生堂プロフェッショナル社の現場に基づいた実践力を組み込む。

ヘアメイクの基礎技術を習得するに当たり、JBMAと授業内容/教材/評価方法を協議の上3月末までにシラバス作成する。インストラクター資格保有者によりJBMA作成のテキストを使用して授業を実施、試験評価する。また、JBMAメイクアップ検定を受検する。

接客を交えたメイク技法やアンチエイジングメイク技法習得に当たり、資生堂プロフェッショナル株式会社と事前に協議しカリキュラムを設定、授業内容/教材/評価方法を調整の上3月末までにシラバス作成する。資生堂プロフェッショナル株式会社から派遣の講師により授業実施、評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
メイクアップ カウンセリング	接客を交えたメイク技法やアンチエイジングメイク技法など応用メイクを習得します。	資生堂プロフェッショナル株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 教務規約第35条に従って、教育の一層の充実を図るため、企業、団体等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修等や指導力の修得・向上のための研修等を実施する。
 研修企画部門を組織して指導力の修得・向上のための研修等の年間計画を年度初めに計画し、教育進捗状況に合わせて内容・時期を調整しながら設定する。また、専攻分野における実務研修はJMA技術研修、JBMA研修への教員研修参加を定例化し、それに加えて必要な研修を確認し設定する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名コスメコンシェルジュ・コスメコンシェルジュインストラクター研修
 (連携企業等：主催日本化粧品検定協会、講師「日本化粧品協会認定講師」)
 期間：令和3年12月6日～12月9日 対象：専任、兼任教員
 内容：コスメコンシェルジュに関する研修

2) 研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会「Professional・Expertコースメイク技術研修」」
 (連携企業等：主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」)
 期間：令和4年3月21日-23日 対象：専任、兼任教員
 内容：Professional・Expertコースメイク技術に関する研修

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「Hyper-QU研修」
 (連携企業等：株式会社図書文化社)、
 期間：令和3年4月27日 対象：専任教員、教務スタッフ
 内容：充実した学校生活を送るためのアンケートHyper-QUの結果分析、活用法研修

2) 研修名「PEPTALK研修」
 (連携企業等：一般財団法人 日本PEP TALK普及協会)、講師「認定講師」
 期間：令和4年3月17日 対象：専任教員、教務スタッフ
 内容：人を元気づけ、勇気づける魔法の言葉、ペップトーク実践研修

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会「JBMA認定講師勉強会(オンライン)」」
 (連携企業等：主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」)
 期間：令和4年10月18日 対象：専任教員
 内容：ジャパンビューティ・メソッド協会 Expertコースメイク技術に関するオンラインでの研修

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「コーチング研修」
 講師：一般社団法人生涯学習開発財団 認定マスターコーチ
 期間：令和4年9月21日 対象：専任教員、教務スタッフ
 内容：学生のやる気、主体性を育むためのコーチング研修

2) 研修名「hyper - QUの活用法研修会」
 (連携企業等：株式会社図書文化社)
 期間：令和4年12月 対象：専任教員、教務スタッフ
 内容：充実した学校生活を送るためのアンケートhyper-QUの結果に基づく学生支援方法について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

1. 学校関係者評価の目的

本校は実践的な職業教育の質保証及び質の向上のために、自己評価及びそれを基にした学校関係者評価を実施する。また学校関係者評価を行う主体として学校関係者評価委員会（以下「関係者委員会」という）を設ける。

2. 学校関係者評価委員会の構成

関係者委員会は、関連業界等関係者、卒業生、保護者または地域関係者、その他学校長が必要と認める者から学校長が委託する委員により構成する。委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残存期間とする。委員は再任することができる。

3. 学校関係者評価委員会の運営

関係者委員会に委員長を置く。委員は学校長が招集し、委員長がその運営に当たる。学校長が必要と認める場合は、委員以外の者の出席を求めることができる。関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。学校長は自己評価の結果を関係者委員会に報告し、意見を聴く。関係者委員会は自己評価の進捗状況に応じて、次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

4. 学校関係者評価委員会実施結果の活用

委員長は、関係者評価委員会の評価結果をまとめ、報告書を作成する。学校長は関係者評価委員会の評価結果についてその意見を尊重し、教育活動及び学校運営等の質保証と向上に継続的に努めなければならない。

5. 学校関係者評価結果の公表

年に2回の関係者委員会を開催し、速やかに報告書を当校ホームページ上に公表する。

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

事前に校内で作成した上記項目による自己評価報告書をもとにした自己評価委員会を開催し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を行った。この自己評価委員会の結果を受けて、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、学校関係者評価委員会で状況を報告している。2021年度は9月11日、2月16日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2021年度1回目は自己評価報告書を事前に各委員に送り、当日は学校からの発表と質疑応答の時間とした。また学校からの質問も事前にお送りし、問題解決の提言をいただいた。2回目は1回目いただいた提言に対しての実行もしくは進捗の報告を行っている。両日とも教育成果の昨年との比較、コロナ禍による学習環境の変化と就職に関する質疑が多くなった。2020年度の自己評価報告書及び2021年度の学校関係者評価委員会報告書を当校ホームページ上で公表している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎裕輔	株式会社クラフト・ワークス	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	分野企業
大久保紀子	一般社団法人ジャパン・ビューティメソッド協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	分野協会
川端勉	資生堂プロフェッショナル株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	分野企業
貴治康夫	元大阪府立高等学校教頭	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	高校等関係者
中上隆雄	済美地域社会福祉協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	地域関係者
鈴木有紗	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() 令和3年9月30日、令和4年3月31日
[URL:http://art.ecc.ac.jp/](http://art.ecc.ac.jp/)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。
連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム（科目配当表（科目編成・授業時数） ・進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・終了の認定基準等） ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業者数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数（職名別） ・教職員の組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み状況 ・実習・実技等の取り組み状況 ・就職支援等への取り組み支援 ・企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況、課外活動（部活動、サークル活動、ボランティア活動等）
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い（金額、納入時期） ・活用できる経済的支援措置の内容等（奨学金、授業料減免等の案内等）
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL:<http://art.ecc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程アーティスト学科ビューティアドバイザーコース) 2022年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ベーシックメイクアップ	クレンジングからフルメイクまで、メイクアップの基礎を習得します。	1前	120	8	0	4		○		○	○	
2	○			カウンセリングテクニックⅠ	ビューティアドバイザーとしての仕事内容と役割、求められる接客力・カウンセリング力・アドバイス力を学習しコスメ販売に必要なカウンセリング販売を習得します。	1前	30	2	1	0		○			○	
3	○			カスタマーサービススキルズ	綺麗な立ち居振る舞い・社会人としての話し方・接客用語を習得します。	1前	30	2	1	0		○		○	○	
4	○			コスメティックライセンス	日本化粧品検定2級資格取得を目指します。肌悩みに応じた化粧品やメイク方法だけでなく、紫外線・食事・運動・睡眠など美肌に影響を与える要因についての基礎知識を学びます。	1前	30	2	1	0		○			○	
5	○			フェイシャルエステティック／アロマセラピー	フェイシャルエステ実習。クレンジングとマッサージテクニックを習得します。アロマセラピー（フレグランス）の香りの歴史、植物のエッセンシャルオイルの基礎知識や効果について学習し、ビューティアドバイザーとして求められる技術力を習得します。	1後	60	4	0	2		○			○	
6	○			プレゼンテーションスキルズⅠ	人前で話すことになれ、予定した内容を決まった時間内で、筋道を立てて話すパブリックスピーキングができ、聞き手を納得に導けるプレゼンテーションスキルを身に付ける。	1前	30	2	1	0		○			○	
7	○			ビューティヘアテクニックⅠ	ビューティアドバイザーとしてふさわしいヘアアレンジスタイル・夜会巻を習得します。	1前	60	4	0	2		○			○	
8	○			カラーコーディネーション(BA)	「色の三属性」「配色」「トーン」等、実習を通して色彩の基礎を習得します。	1前	30	2	1	0		○			○	
9	○			Customer Service EnglishⅠ(BA)	コスメカウンターで必要とされる接客英会話をさまざまな場面設定でのロールプレイング練習において習得し、外国人のお客様に対する接客能力を高めます。	1前	30	2	1	0		○			○	
10	○			業界研究Ⅰ(BA)	化粧品業界の概況、企業特性等について自ら調べる方法を学び、十分な業界研究を経て希望する企業選択やキャリアプランニングを行います。	1前	30	2	1	0		○		○		
11	○			筆記試験対策Ⅰ(BA)	就職活動で課される筆記試験対策の授業を行います。	1前	30	2	1	0		○			○	
12	○			メイクアップテクニック(BA)	JBMA検定プロフェッショナルコース取得を目指し学習します。	1後	90	6	0	3		○		○	○	

13	○		イメージメイクアップ	イメージメイクの基礎応用を習得します。	1後	60	4	0	2		○	○		
14	○		ヒューマンリレーションズ(BA)	おもてなしの「種類」「程度」「方法」などを適切に選ぶ時に必要不可欠な「人間関係の構築」「感情の変化」「行動の選択」などの原理、原則について解説し、「おもてなし」を断片的な知識でなく本質的な理解として習得します。	1後	30	2	1	0		○		○	
15	○		カウンセリングテクニックⅡ	ビューティアドバイザーとしての仕事内容と役割、求められる接客力・カウンセリング力・アドバイスカを学習しコスメ販売に必要なカウンセリング販売をケーススタディも含めて習得します。	1後	30	2	1	0		○		○	
16	○		皮膚／コスメティック知識	皮膚知識・紫外線・肌トラブル等と肌のメカニズムと化粧品の種類を学習します。	1前	30	2	1	0		○		○	○
17	○		BA実践(社会貢献)	社会貢献活動を通して、BAとしての販売実践力を身につけていきます。	1後	30	2	0	1		○		○	○
18	○		パーソナルカラー(BA)	その人に調和する色のコーディネートを習得します。	1後	30	2	1	0		○			○
19	○		Customer Service EnglishⅡ(BA)	CustomerServiceEnglish101で習得した知識をもとに、コスメカウンターで必要とされるより高度な接客英会話をさまざまな場面設定でのロールプレイング練習において習得し、外国人のお客様に対する接客能力を高めます。	1後	30	2	1	0		○			○
20	○		業界研究Ⅱ(BA)	化粧品業界の概況・企業特性等について引き続き自ら調べる方法を学び、より一層十分な業界研究を経て、希望する企業の選択やキャリアプランニングを行います。	1後	30	2	1	0		○			○
21	○		筆記試験対策Ⅱ(BA)	就職活動で課される筆記試験対策の授業を行います。	1後	30	2	1	0		○			○
22	○		就職対策Ⅰ(BA)	自分をアピールする方法や履歴書の書き方の基本を学習し、希望する職業に就けるよう具体的に準備を行います。	1後	30	2	1	0		○			○
23	○		アドバンスドメイクアップ	JBMA検定エキスパートコース取得を目指し学習します。	2前	90	6	0	3		○		○	○
24	○		メイクアップカウンセリング	接客を交えたメイク技法や作品作りの技法を習得します。	2前	90	6	0	3		○		○	○
25	○		コスメティックセールススキルズⅠ	コスメ販売の基本ノウハウをケーススタディにより学習します。	2前	120	8	0	4		○		○	○
26	○		スキンケア	皮膚／コスメ基礎知識で習得した皮膚の基礎知識に加え、更に肌のメカニズムや化粧品の成分・品質などを学習します。	2前	30	2	1	0		○		○	○
27	○		BA実践Ⅰ	ビューティアドバイザーとして習得したメイク技術・販売知識を活かし、現場実践力をつけます。	2前	30	2	0	1		○		○	

28	○		プレゼンテーション スキルズ II/ビジネスマナー	相手の状況に合わせてたプレゼンテーションスキルを身に付けます。ビジネス社会の基本ルール、職場常識、人間関係や話し方を学びます。	2前	30	2	1	0		○		○
29	○		Customer Service English III (BA)	コミュニケーションスキルを上げて外国人客を化粧品カウンターで対応できるように学習します。BA関連用語を学習しながらお客様の要望を理解し対応できるように種々の会話を練習します。	2前	30	2	1	0		○		○
30	○		就職対策 II (BA)	多様化する面接試験内容に対応し、面接時の応答力やアピール力を習得し就職試験の突破を目指します。	2前	30	2	1	0		○		○
31	○		ビューティメイクアップ	ECCコレクションの対策授業を通してヘアメイクの応用技術を学びます。また、メイクアイテムの販売方法を学びます。	2後	90	6	0	3		○		○ ○
32	○		ビューティボディケア	ピラティスで体幹を鍛え、美しい姿勢づくりを目指します。動くことで自己肯定感を高め、BAとして必要な心身のセルフコントロール力を身につけます。	2後	30	2	1	0		○		○
33	○		コスメティックス セールス スキルズ II	ケーススタディに基づき実践的な販売方法を習得します。	2後	90	6	0	3		○		○ ○
34	○		コスメティックス マーケティング	化粧品業界の構造やマーケティング戦略の立案～実施までの仕組み、店頭BAがマーケティングに果たす役割を理解します。「ブランド・自分のファンを作ること＝安定した売上の確立」に必要な「マーケッター脳」を身につけることで長期的なキャリアプランを組み立てられるようになります。	2後	30	2	1	0		○		○
35	○		エキストラ スキルズ	描写の基本を学習し、顔を立体的に捕らえ、陰影のつけ方を習得します。美容栄養学の基礎知識や肌効果について学習します。	2後	30	2	0	1		○		○
36	○		プレゼンテーション スキルズ III	この期を、2年間のプレゼンテーションの授業の第3期「実践力養成期」と位置付け、高校卒業までに学ぶ機会がなかった①(断片的でなく)系統だった敬語の理論、②大人として知っておきたい言い回し(フレーズ)を中心に学習します。	2後	30	2	1	0		○		○
37	○		BA実践 II	ビューティアドバイザーとして習得したメイク技術・販売知識を活かし、現場実践力をつけます。	2後	30	2	0	1		○		○ ○
38	○		ビューティヘアテクニック II	ヘアアレンジテクニックの基礎を活かし、女性らしさを引き出すヘアスタイルを習得します。	2後	30	2	0	1		○		○
39	○		ネイルケア&カラー(BA)	ネイルの基礎知識・基本的なネイルケア、カラーリング技術を習得します。	2後	30	2	0	1		○		○
40	○		中国語 I	中国語の基礎知識と基本的な日常会話をマスターします。	2後	30	2	1	0		○		○
41	○		Customer Service English IV (BA)	コミュニケーションスキルを上げて外国人客を化粧品カウンターで対応できるように学習します。BA関連用語を学習しながらお客様の要望を理解し対応できるように種々の会話を練習します。	2後	30	2	1	0		○		○
合計					41科目	1800単位時間(120単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

①卒業要件：各学年58単位（卒業年次は54単位）を修得しているものに対して、学年末に進級・卒業判定会議を開催し、学校長が進級・卒業を認定する。	1 学年の学期区分	2期
②履修方法：選択必須科目については、専攻等により事前に選択する。必須科目については自動的に登録される。	1 学期の授業期間	15週